

岩本ゼミナール機関誌

第 12 号

2007 年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

岩本ゼミ機関誌第 12 号 (2007 年度版)

目次

| | | |
|--|------------|-----|
| I. はじめに | 岩本武和教授 | 1 |
| II. 寄稿論文 | | |
| アメリカ経常収支赤字の持続可能性 ーキャピタルゲインと評価効果の視点からー | 岩本武和教授 | 4 |
| III. 卒業論文 | | |
| 日米英の対外資産負債残高における 評価効果と金利効果の役割 | 13 期生 宮崎聡 | 23 |
| IV. ゼミ単位取得論文 | | |
| 一国二制度下の人民元と香港ドルに関する考察 | 13 期生 馬賽 | 50 |
| 東アジアにおける国際金融センターの競争 | 13 期生 鄧卓輝 | 79 |
| アジア単一通貨の実現可能性について | 13 期生 晝間洋介 | 95 |
| 日本・マレーシア経済連携協定 から見る FTA の効果及び利用率 | 13 期生 寺嶋知憲 | 110 |
| 日本の金融機関とアジア債券市場に関する一考察 | 13 期生 佐藤健太 | 123 |
| V. ゼミ年間活動報告およびインゼミ立論・提出論文 | | |
| 2007 年度ゼミ活動報告 | 14 期生 嶋田悠一 | 138 |
| 高崎経済大学とのディベート立論 | 14・15 期生 | 141 |
| 三大学(阪大・神大)論文発表会提出論文 | 14・15 期生 | 148 |
| 論文発表会 ISFJ 提出論文 | 14・15 期生 | 178 |
| VI. 先輩からのメッセージ | | 212 |
| VII. 2007 年度ゼミ決算報告 | 14 期生 今江荘人 | 214 |
| VIII. 編集後記 | 13 期生 佐藤健太 | 216 |

Ⅱ. 寄稿論文

アメリカ経常収支赤字の持続可能性
—キャピタルゲインと評価効果の視点から—
岩本 武和
京都大学大学院経済学研究科

4

Ⅲ. 卒業論文

日米英の対外資産負債残高における評価効果と金利効果の役割

宮崎 聡

京都大学経済学部経済学科

23

IV. ゼミ単位取得論文

| | |
|--|-----|
| 一国二制度下の人民元と香港ドルに関する考察 馬 賽 | 50 |
| 東アジアにおける国際金融センターの競争 鄧 卓輝 | 79 |
| アジア単一通貨の実現可能性について 晝間 洋介 | 95 |
| 日本・マレーシア経済連携協定から見る FTA の効果及び利用率 寺嶋 知憲 | 110 |
| 日本の金融機関とアジア債券市場に関する一考察 佐藤 健太 | 123 |

V. ゼミ年間活動報告およびインゼミ立論・提出論文

| | |
|------------------------|-----|
| 2007 年度ゼミ活動報告 嶋田 悠一 | 138 |
| 高崎経済大学とのディベート立論 | 141 |
| 三大学(阪大・神大)論文発表会提出論文 | 148 |
| 論文発表会 ISFJ 提出論文 | 177 |

OB・OGの方へ

◎寄付金のお願い

2007年度も多くの方からの寄付金を頂きました。ありがとうございました。おかげさまで今年度も充実したゼミ活動となりました。ここに現役ゼミ生を代表して、お礼を申し上げます。

2008年度も改めて寄付金を頂戴できれば幸いです。一人一口7000円にての御寄付をお願い致します。

みずほ銀行 百万遍支店 普通預金

口座番号 476-2003967

京都大学経済学部岩本ゼミナール 岩本武和 宛て

◎青竹会について

一年延期された青竹会については、岩本先生のはじめにをご参照ください。皆様のご参加をお待ちしております。

◎ホームページについて

こちらも、岩本先生のはじめにをご参照ください。

◎名簿について

ゼミ名簿に関してですが、住所・電話番号・勤務先等に関して変更点があれば出来る限り更新をするようにしております。現在の名簿の内容に変更がある場合、また今後変更点が生じた場合には、次年度編集委員の14期生嶋田悠一(shimadayuichi@w4.dion.ne.jp)か直接、岩本先生までご連絡ください。

VIII. 編集後記

今年の冬はここ2年の冬と違い京都らしい底冷えが続き、雪も多い本格的な冬が到来しています。大学の右手の大文字山も雪化粧をする日々が続いております。また冬がやってきたと思うものの、僕達4回生にとっては4度目の冬がやってきていることに気がつきます。

京都という街は非常に魅力的な空間でないでしょうか。個人的ではありますが、京都は歴史あるだけでなく空間自体がゆったりとしているように感じます。岩本先生が以前、機関紙において「心のゆとり」が失われるとお書きになっているのを思い出しました。京都での学生生活、少しゆとりを持って生活するのもいいのかもしれませんが。時に原点に戻り学問をしたいと思った時には、僕たちには京都大学があります。岩本ゼミがあり、共に学び合う仲間がいます。つまり、環境はこの上なく整っているのです。恵まれた環境というのは違う環境を前にした時にひょっこり顔を出すものなのか今になってこの有難みを強く感じます。岩本ゼミで僕達は国際経済学を始め、多岐に渡る経済トピックへの誘いを受け、人とのつながりの大切さを学びました。これらは今後、大切な資産になること間違いありません。紆余曲折あれ、やはり共に学ぶ仲間の存在は欠かせないものでした。三大学班ではリーダーを務めてくれ、時にみんなに笑いを与えてくれたテラブルメーカーの九州男児寺嶋君、テニスサークルでは会長であり予想だにしないランダムウォーク的行動で僕らを楽しませてくれた入江君、この二人はポケゼミから岩本先生に従事していた岩本チルドレンでした。自転車で世界を股にかけると言って本当にやってのけた松田君はディベートで燃える男の一面を発揮してくれて頼りになりました。同じく、3回生の後期からドイツに留学した中野さんも鋭い視点からの切り口でディベートの中心となっていました。岩本ゼミの勉学の中心としてゼミを引っ張ってくれた宮崎君はフランスからの留学後、熱心にゼミ活動に参加してその知識をゼミ内に存分にスピルオーバーしてくれました。なによりも試験前にはみんなを救出してくれました。ISFJ班を引っ張ったのは静かにデキる男、晝間君でした。春合宿では規制緩和がなされ、噂のデジカメの一部が公開されました。意外な一面を見ることができました。4月から院生活が大阪で始まる馬君はディベートで熱い議論を繰り広げ、活躍してくれました。鄧君はISFJの中心としてがんばってくれて、普段は笑顔でみんなを安心感に包んでくれた優しい男でした。ゼミの雰囲気人を一倍気にかけてくれた真戸原君はディベートで共に何晩も徹夜の議論を繰り返し、ディベートを支えてくれました。三谷さんとの絡みは今でも印象深く、岩本先生への企画提案はみんなの本望でした。3回インゼミ時にこのメンバー全員がそろうことが出来なかったのが心残りですが、社会人になってからも何かと関わり合いを継続できたらいいなと思います。現在のゼミは人数も増え、非常に大所帯ではありますが、一人一人個性豊かで様々な切り口からの議論が可能であり、今後も一層、価値ある資産が生み出されていくと思います。今後もゼミがアカデミックかつ活気のあるゼミであり続けることを切に願っております。

最後になりますが、先生には多大なご迷惑をおかけしたかと思えます。そして、頼りない僕でしたがどうかゼミを運営することができたのは先輩方・後輩そしてなにより同回の方々の支えがあったからだと思っております。本当にありがとうございました。

2008年2月19日(火) 佐藤 健太